

P.46 ◆質問 9番(小林孝一郎君)

◆9番 (小林孝一郎君)

(略)

それでは次に、二人の科学者についてお尋ねします。

本県出身の科学者には、世界最高水準の研究レベルを誇る科学者が2人います。

一人は、ことし岡山県文化特別顕彰を受賞した倉敷青陵高校、京都大学出身の森和俊京都大学教授です。森先生は、小胞体ストレス応答、すなわち細胞内の小胞体に異常なたんぱく質が蓄積された際、細胞がその異常を解消する仕組みを解明し、糖尿病やパーキンソン病など、難病の治療に大きく貢献するもので、この研究成果により、ノーベル賞受賞の山中伸弥氏も受賞したアメリカ医学界最高の賞であるラスカー賞を、平成26年に受賞しています。

もう一人は、森先生と同じ1958年生まれ of 秋山隆彦学習院大学教授です。秋山先生は、倉敷天城高校、東京大学出身で、医薬品の中間体の合成に使用可能な新たな触媒の開発で、これは触媒効率の高い触媒の開発でして、医薬品や農薬などの開発に大きく貢献するものであります。過去に40名以上がノーベル賞を受賞したドイツで最も栄誉ある学術賞、フンボルト賞をこの春受賞しました。また、この8月には、ノーベル賞受賞の野依良治先生も受賞したアメリカ化学会賞を受賞しました。病気治療の可能性を飛躍的に高めた両先生の研究成果は、高く評価されるものであり、まさに本県の誇りであると思います。両先生とも、本県出身者として初となるノーベル賞候補に名乗りを上げたものと期待しています。

そこで、お尋ねします。

私は、多くの県民の皆さんに、その努力と英知に触れていただく機会をぜひ設けていただきたいと思います。理系男子である知事との鼎談などを企画し、科学のおもしろさや奥深さ、学問の意義、そして学ぶことの大切さなどを語り合うことは、意義深いものがあると思いますがいかがでしょうか、お二人への感想も含めて、知事にお伺いします。

また、森先生が執筆した「細胞の中の分子生物学」は、京都大学で文系学生にも大人気の講義内容を読みやすくした最新の生命科学の入門書で、細胞内で繰り広げられる生命現象をまるでミステリーの謎解きのように、基本から優しく解説しています。理系を志す高校生のみならず、文系の道に進む高校生にも大変参考になる書籍です。本県出身の世界的研究者の書籍を、高校生にも広く読んでもらいたいと思いますがいかがでしょうか、教育長にお伺いします。

P.47 ◎答弁 教育長(竹井千庫君)

◎教育長 (竹井千庫君)

お答えいたします。

本県出身の科学者についてのうち、書籍についてであります。県教委としては、子供たちが読書などを通じてみずからの興味・関心を高めたり、進路について考えることで、将来に夢や希望を持って学校生活を送れるようにしたいと考えております。お話の書籍は、最先端の研究をわかりやすく書いたも

のであり、未知の世界を知り、疑問を持つことで学問に関する興味等を高め、みずから主体的に学ぶきっかけになることなどが期待されることから、中学生や高校生対象の科学コンテストの活用や**学校図書****館**での紹介の働きかけなど、機会を捉えて周知してまいりたいと存じます。

以上でございます。